

歴史の中の女性に 光をあてる

■ 歴史の主体としての女性

女性の働き、学びと創造、社会運動などを多くのページに記述し、だれもが個人として尊重しあえる社会について考えを深められるようにしました。



①製糸工場／1918年以前に発行された絵はがき。

(6) 生糸と鉄 —日本の産業革命—

冬の野麦峠を少女たちが越えていく。生糸の輸出が増え、

日本の産業革命を担ったのは製糸工場働く少女たちでした。

②ある製糸工場の一日 (1901年調査) (工場労働者による)

	4月1日	4月2日	4月3日
朝	香物	香物	香物
弁当	スイキ	メザシ	水菜羹
夕	ネギ豆飯	早切 そば豆	おしずし
病室	ネギ豆飯	玉子 千切	高野豆腐 玉子

* 主食は米と麦を混ぜて炊いた雑穀
③製糸工場の寄宿舎の設立 (1901年調査) (工場労働者による)

青ちんかつた子ども

・ 出産数	938人
・ 死産数	110人
・ 4歳までに死亡した子の数	278人

(茨城県弓高田村1905～1909年)

194



平等を求めた女性たちの心情と運動、その背景に迫ります。

(12) 女性は太陽だった —社会運動の広まり—

平塚らいてうは、元始、女性は太陽だったと宣言した。権利を求める運動はどう広がっていくか。

教育の制度
1907年に、小学校6年間を義務教育とした。小学校卒業後の進学先には、高等小学校2年、中学校(男子)5年、女学校4～5年などがあった。女学校への進学率は、1920年に9%、1925年には15%近くになった。

■ 月のように生きたくはない

平塚らいてうは女学校を卒業後、設立されたばかりの日本女子大学校に入学し、哲学や文学の本に読みふけりました。1911年、25歳のとき、女性の作家や詩人の作品を掲載する文芸雑誌『青鞥』を創刊します。雑誌の編集や販売の仕事なども、女性たちが行いました。創刊号で、平塚らいてうは「元始、女性は実に太陽であった」と宣言します。

当時、女性には選挙権も財産権もなく、自分の意思で結婚する自由もありませんでした。太陽である男性に従い、月のように生きることが、女性のあり方だとされていたのです。『青鞥』は、このような考えや制度を打ち破り、女性の人間としての可能性を開かせようと、よびかけました。新聞や雑誌は『青鞥』を激しく非難しましたが、女性たちからは共感の手紙が多く寄せられました。

■ 女性たちが団結すべきときがきた

このころ、多くの女性が社会で働いていました。1920年の第1回国勢調査では、男性の就業者1699万人に対し、女性就業者は1027万人でした。女性では、農業や紡績・製糸工場で働く人が多数を占め、タイピストや電話交換手など、新しい職業につく人も大勢いました。

こうしたなか、1919年、平塚らいてうと市川房枝は、女性の社会的地位を向上させるために、女性の団結を訴え、新婦人協会をつくりました。



④平塚らいてう(右)と市川房枝(左端)／新婦人協会の活動に協力する男性も多く、集まった署名の4割以上が男性のものだった。

206

教科書に登場する女性たち

- 卑弥呼・持統天皇・北条政子・エカチェリーナ2世など、強いリーダーシップをもった女性政治家たち
- 八条院暲子・亀屋五位女・津田梅子など、経済的・社会的な力をもった女性たち
- 紫式部・清少納言・樋口一葉・与謝野晶子など、文学に名を残した女性たち
- エリザベス=フリーマン (p.139)・ラクシュミー=パーイー (p.149)・ユグァンスン (p.202)・マリー=キュリー (p.203)・ゾフィー=ショル (p.227)・エマ=ゴンザレス (p.246)・山口シヅエ (p.248)・マルタ=クビショバ (p.265) など、平和と人権を求め、強権に抗した女性たち
- オランプ=ド=グージュ (p.140)・岸田俊子 (p.170)・楠瀬喜多 (p.171)・平塚らいてう (p.206) など、女性の権利の伸長のために活動した女性たち
- 夏淑琴(シアスーチン) (p.225)・アンネ=フランク (p.230)・ひめゆり学徒隊 (p.239)・佐々木禎子 (p.241、259)・金学順(キムハクスン) (p.271) など、身をもって歴史の証人になった女性たち